

「命を大切に教育」であり、「生きる力をくぐむ教育」です。

防災教育は

- 人とつながる、心と心がつながる大切なことを伝えよう
- 1つ起こるかかわらない災害を自分自身の問題としてとらえ、日ごろから、思いやりの心を育て、災害や防災に対する知識を学び、マニュアルや計画を整備し命を守るための安全管理を行うなど、いざというときのための備え、地域や家庭との間かれた関係を構築することで、自分の命は自分で守り、自分たちのまち(学校)は自分たちで守ることに近づきます。

7 最後は人と人のつながり

きりとり 山新 谷新

平成20年3月 千葉県教育委員会

「いのち」を守る!そして助け合おう!

「備えあれば憂いなし」

1つ起こるかかわらない地震に備えて~

> 指導資料技術版 > 教職員用

5 子どもたちを守る

- 「自分の命は自分で守る」意識を育てよう
教職員は児童生徒の命を守らなければなりません、同時に多数の子どもたちを守るのは困難です。激しい揺れのときは教職員も自分の命を守るだけで精一杯です、いつも子どもとのそばにいられるとは限りません。自分の命は自分で守るために、地震のときのとるべき行動を児童生徒に教えておく必要があります。
 - 災害時の教職員の業務を確認しておこう
児童生徒の生命の安全確保をすべてに優先させ、安全のための避難誘導に全力をあげなければなりません。そのために、事前に作成してある防災計画やマニュアル等について十分に共通理解するとともに、各自の任務分担に応じて対処できるようにしておくことが不可欠です。
- 教職員としての自覚を持ち行動しよう。

決して他人事ではない。自分自身の問題として考えよう。

● 過去の災害を調べてみよう
千葉県でも、1703年元禄地震や1923年関東大震災のときに大きな被害を受けました。

● 地域の災害特性を知ろう
津波、げけ崩れや液状化現象が起こることがあります。

世界で発生する地震のうち、約10分の1は日本とその周辺で発生している。

千葉県を含む南関東地域でマグニチュード7クラスの地震が今後30年以内に70%の確率で発生する。
(国の地震調査研究推進本部)

1 大地震は必ず起きる

- 実際には被災した人の貴重な体験談や過去の災害から学ぼう
- 備え 「心」
災害に対する心構えを身につける。
- 備え 「知識」
相手(災害)をよく知る。
- 備え 「技能」
いざというとき落ち着いて行動できるよう技能を磨く。
- 備え 「施設・設備」
防災の視点から校舎内外の安全性のチェックを行う。
- 日ごろから備えて被害をできるだけ小さく(減災)しよう。

日ごろの取組が命を守ることにつながります。

● 命を守るためのトレーニング
緊急地震速報活用避難訓練
・家庭や地域と連携した防災訓練
・体験活動を含んだ防災訓練
・コンボイベント避難訓練 など

● 防災訓練を工夫しよう
おきまよう。
この日から災害時の行動をシミュレーションして
おきまよう。

● 災害に対するトレーニング
「イメージトレーニング」をしよう

● 転倒防止や落下防止、飛散防止等の対策をしておく
学校は安全で安心な場所であらなければなりません。校舎内外の安全点検・安全管理は、防災の観点から行います。

2 ますます生き残る、そして、けがをしない

3 日ごろからのつながりを大切にする

● コミュニケーション能力を育てよう

阪神・淡路大震災のとき誰に助けられたか

自力で	34.9
家族に	31.9
友人・隣人に	28.1
通行人に	2.6
救助隊に	1.7
その他	0.9

87.5%

【出典】社 日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による

● 地域に開かれた学校づくりを進めよう
防災は地域全体で担うものであり校内だけでなく家庭や地域社会との連携を強化することが不可欠です。

結局頼りになるのは地域での助け合いです。

6 学校は避難所になる

- 避難所対応マニュアルを作成しておこう
避難所の指定は市町村防災担当部署が行いますが、指定されていなくても、住民が避難してきたら、そこは「避難所」です。また、避難所の運営は基本的に市町村防災担当や地域住民が行うことになっていますが、現実的には教職員が避難所の運営スタッフとして協力せざるを得ない場面が出てきます。事前に関係組織と連携し備えを検討しておく必要があります。
 - 災害時の対応シミュレーションを繰り返しおこう
いろいろな場面や課題を想定して、事前に対応シミュレーションをすることが備えにつながります。
- 避難所としての役割も自覚しよう。